



「計画的なかん水」は、高収益につながります

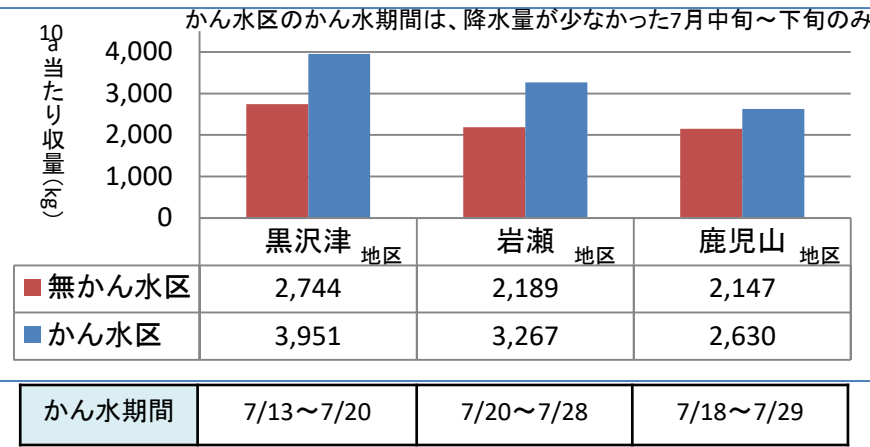


宮崎県中部農林振興局畑かん営農推進担当

問い合わせ先：0985-26-7279

平成26年は、7月上旬と8月に降雨が多く、日照不足で、さといも疫病が多発する天候でしたが、実は、7月中下旬は非常に降雨が少ない天候でした。

平成26年度 石川さといも試験ほ結果(西諸県地区)



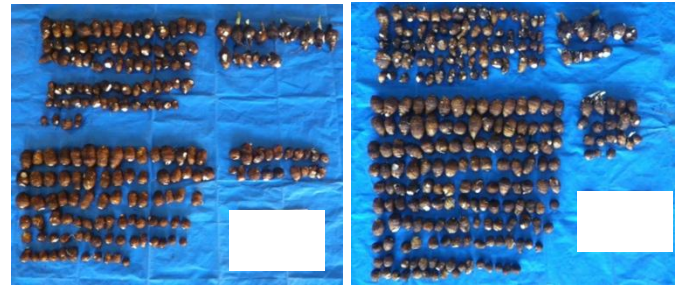
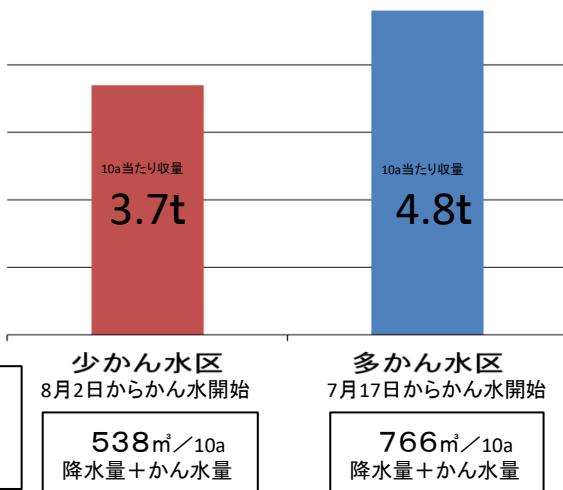
- ・ 3つの試験区で、収量が平均約1 t/10a増加していました。
- ・ 7月中下旬の日照時間がある時期に、かん水によって水分を確保することで、光合成が活発になったと考えられます。

※いもの肥大促進のためには、梅雨明け後(7月～8月)のかん水が重要です。

平成25年度 試験ほ結果(西諸県地区)



地域の7, 8月の降水量は 459㎥/10a



少かん水区

多かん水区

- ・ かん水開始時期は約半月しか変わりませんが、収量は多かん水区の方が約1 t/10a増加しました。
- ・ 多かん水区の方が2L/L率が高くなりました。

※適期のかん水が、収量・品質の向上につながります。

かん水に係る労力の削減

自走式散水器具(ロールカー)の散水高改良に取り組んでいます。

散水における労力・時間等が問題となっていますが、それらの解決にロールカーの導入が効果的と考えられます。

しかし、既存のロールカー本体は幅や高さの調整に限界があり、「さといも」や「しょうが」等の草丈の高い作物では、散水ブームの回転で茎葉を切断してしまう事態も生じています。

そこで、まだ改良の余地はありますが、簡易な加工で高さの調整域を拡大する改良に取り組んでいます。



大型スプリンクラー等を利用する場合には、散水タイマーがおすすめです。



電池式タイマーと電磁弁の組み合わせです。わずらわしい給水栓の開閉やかん水忘れがなくなります。



さらに、レインセンサーと組み合わせることで、より効率的なかん水ができます。(レインセンサー：雨感知装置)